

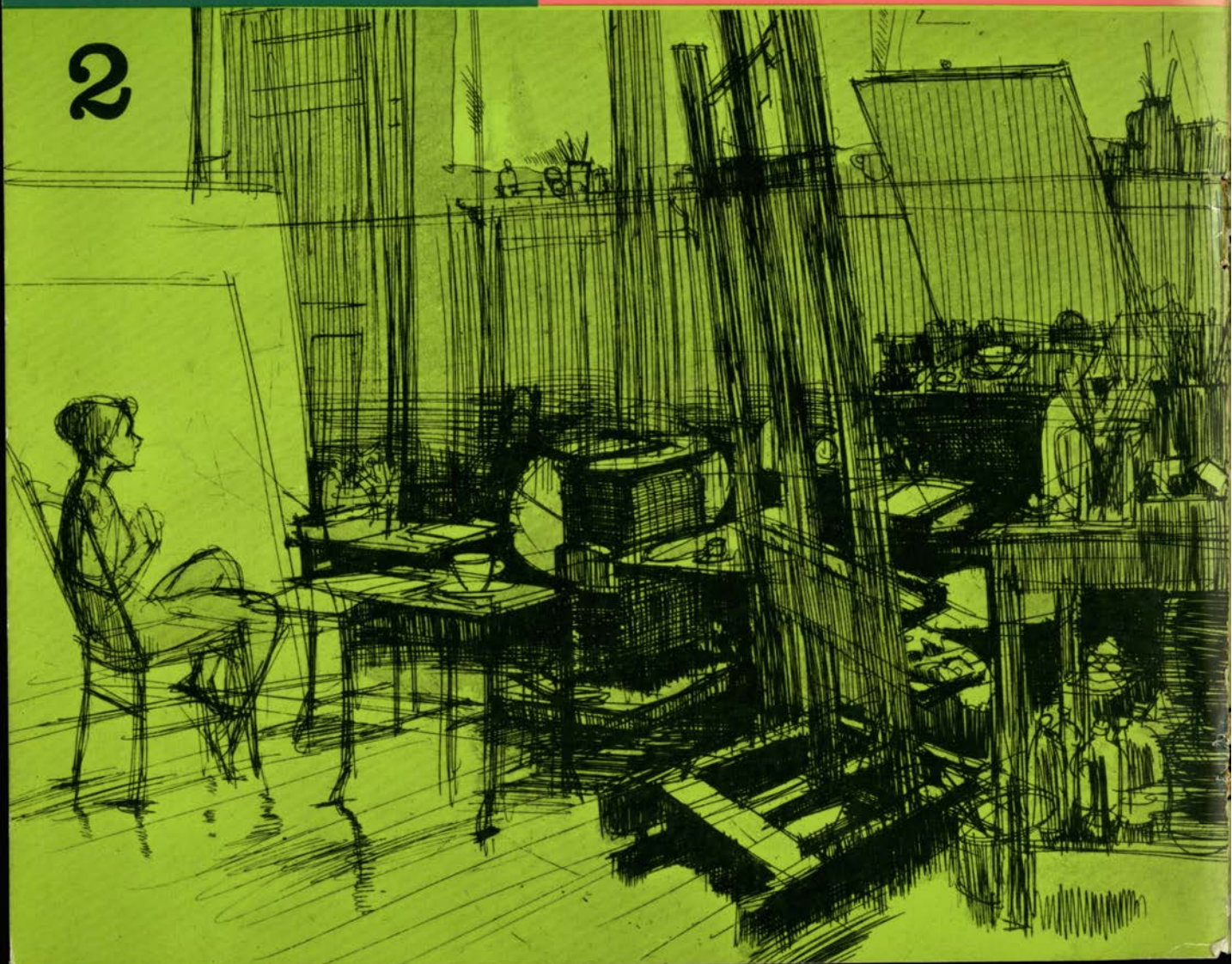
★郷土を愛する人々の雑誌★

神戸っ子

神戸っ子 昭和40年1月20日第三種郵便物認可 昭和44年2月1日印刷 通巻94号 昭和44年1月1日発行 毎月一回


the kobekko no.94 February 1969

2



真珠の美しさを
完璧に表現したミキモト
優雅な輝きに
個性をプラスしたペンダント
ニューデザインのブローチ
世界の宝石店ミキモトが
訪れる春に先がけて
その卓抜した細工技術を駆使し
作り上げた逸品です

MIKIMOTO

 御木本真珠店

神戸店=三ノ宮-神戸国際会館TEL. 22-0062

大阪支店=堂島-新大ビルTEL. 363-0247京都=京都ホテル・京都国際ホテル

大阪=阪神・高島屋・松坂屋・阪急★本店=東京-銀座4丁目TEL. 535-4611



山裾は冬眠の蝶
ほのあかり

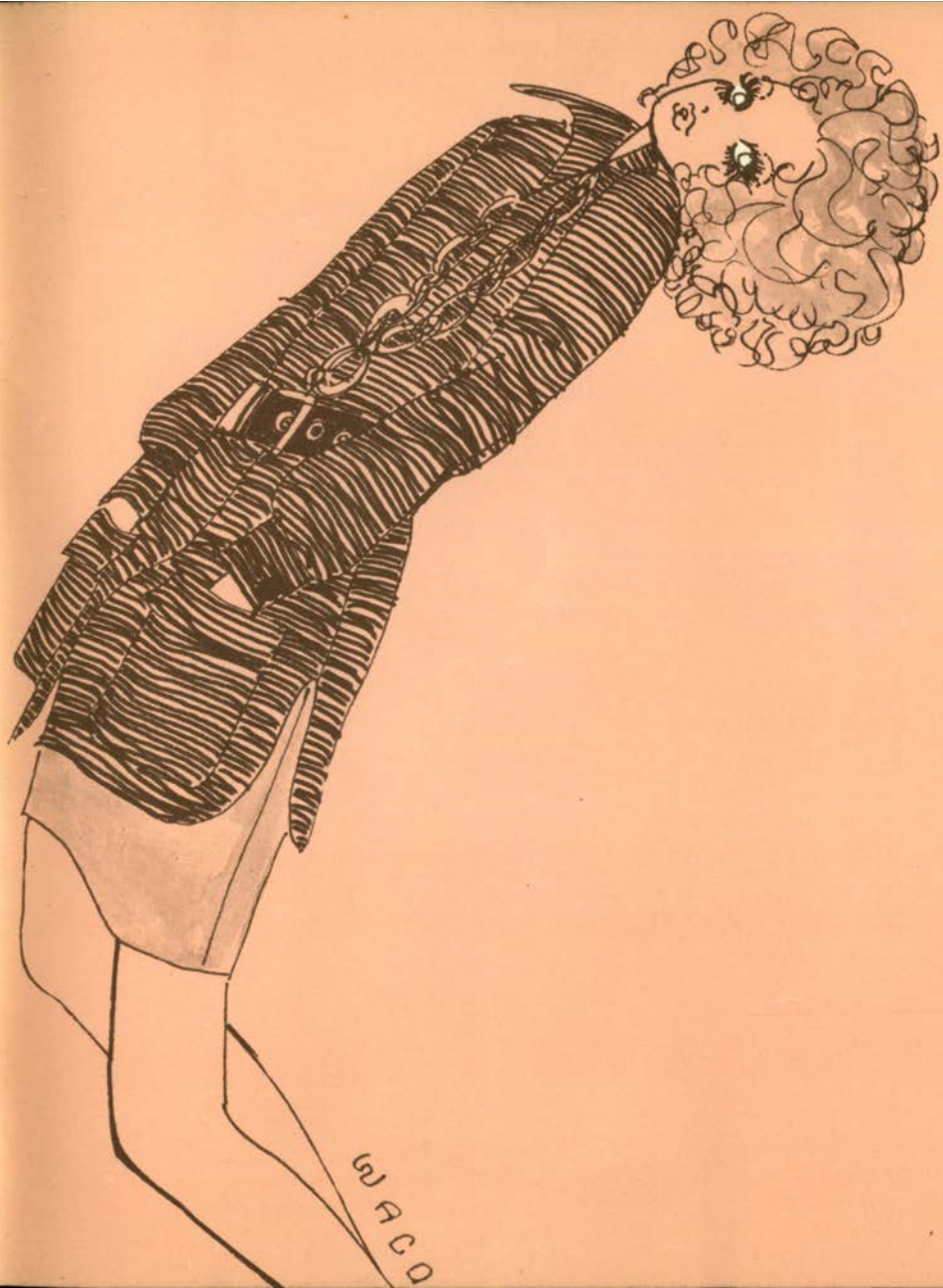
絵十詩 津高和一



美しさを創るオートクチュール

エスター ニュートン

●神戸アロード TEL(33)1818・(33)1858 大阪阪神 TEL(361)1201



神戸っ子'69

小池正子

ヘラジオ関西ミス・サテライト

カメラ・米田定蔵

冷たいガラスと放送設備に暖かい息のかかる昼時、サテスタに群がる人は、音を眼から聞いている。

小池正子。女子美大油絵科を卒業。トルコの夕焼けを印象的に心に抱く旅行の経験語る。父親の仕事の関係で、神戸によく遊びに来て、昨年十月より、喋ることが苦手という素人性が買われて、ミス・サテライトに。――絵とか環境にかかわらず、たえず自分の持つ美しさを磨くことに心を掛けているの。ただ、ミス・サテライトとしてプロになりきることが何なのか、これが課題です。乱れ髪を気にも止めず、サンチカを散歩した。時間があれば読書です、と答える。テニスで国体にでたこともあるとのこと。舞子在住。23才。



TASAKI PEARLS

田崎真珠

本社・神戸市萫合区旗塚通6-9
三宮店・神戸新聞会館秀品店内
パールファーム神戸・神戸市灘区六甲台町2-4
銀座店・東京都中央区銀座西6-5
パールファーム・溜池電停前(ショールーム)
ヒルトン店・東京ヒルトンホテル内
オータニ店・ホテル・ニューオータニ内
札幌店・札幌パークホテル内
あなたの真珠はパール・マークのお店で
日本真珠小売協会加盟店

あなたの佳き日に
タサキパール

●神戸っ子'69

——小坂 務へ

ニューソニックジャズオーケストラ
指揮・作編曲

カメラ・米田定蔵

幕が上がる。舞台に広がった26名のプレイヤーの醸すリズムが聴衆を魅きつける。小坂務とニューソニック・ジャズオーケストラは、舞台にテレビにと活躍している小坂務。関西学院時代にハワイアンバンドを結成。東京で四年間、コンボを組んでの他流試合。昭和32年頃から、ミュージカルを作曲。大劇・コマ・宝塚劇場と場数を踏んで、一時は、朝日放送のホームソングも作曲。昨年一月、ニューソニックジャズオーケストラを組織し指揮に、作編曲、それに社長業で渉外担当。テレビの仕事を取ると同時に、楽団の個性も伸ばしたいし。神戸生まれ。夙川在住で45才。関西ジャズ界に刺激を与えることを期待したいものだ。



スリーエス
すべてに個性的…SSSに乗る人だけが味わえる
素晴らしくダイナミックな世界!!



NEW Bluebird SSS

兵庫日産
自動車

国鉄三の宮駅南東側 TEL 23:3821



ある集い
神戸二紀会

春は名のみ。冷い潮風が頬に吹きつける波止場。

せいぞろいした多士済々のメンバーは、神戸二紀会のフレッシュマン。

田村孝之助画伯の六甲洋画研究所を母体にして発展した神戸二紀会は、中西勝、鴨居玲、小笠原誠次をはじめ神戸の洋画家の中核をなす人々が生まれているが、このメンバーは、その後につづいて、それぞれ個性的な作風を、個展やグループ展、団体展で発表し、それぞれの世界を確立しつつある人々だ。

今春2月6日から、さんちか広場で「春は絵のあるさんちか広場から」というタイトルで、神戸二紀展が開かれる。美術家はつねに、作品を通じて、自己を主張しています。という小西保文画伯の言葉には「作品をぜひ観てほしい」という各人の自信のほどがうかがえる。春にさきがけて読者の方々に三宮散策のひとつにさんちか広場の絵のある風景の仲間入りをおすすめしよう

右より、知念正文・坂本邦男
宝谷光正・渡辺照定・伊藤悦子・谷口和子・小西保文・松下元夫・前列 大西敏己
（本文 51頁参照）

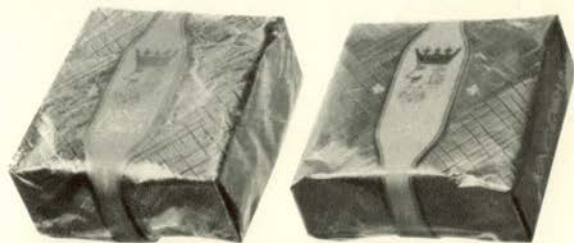
壽本舗

神戸市生田区北長狭通1-19 TEL神戸(078)-39-8681



北欧のムードが いっぱい！

キングダムは北欧の香りゆたかな
新しいタイプのお菓子です
和菓子と洋菓子のみごとな調和が
生んだコトブキのキングダム……
王候の名にふさわしい品格を
お味わいくださいませ



緑とショッピングセンターを持つ湊川公園は、近代的都市公園へと生まれ変わりつつある。



★コウベスナップ

地下に潜る湊川公園駐車場

神戸の名物、湊川トンネルも、幅員36m道路となる。



地下2階の駐車場建設現場。



緑の憩いと歓楽街に囲まれた湊川公園は、神戸人の郷愁だ。昨年四月、ブルドーザーの響きと共に、公園の南側がこつそりと掘られた。地下三階、収容台数約三百台という駐車場の建設工事。来年三月の完成を期して、湊川は都市公園として生まれ変わる。

優雅なきものに気品をそえる
ムラタパール



村田*真珠/銀座山岡*毛皮/舶来婦人服飾



さんちか*レディスタウン・TEL 39-3886~7

デザイン/胡晚子

有限会社・タイグレス

神戸店・神戸市生田区山本通り4-97村田真珠本社内 TEL (078)23-1212~6
東京店・東京都中央区銀座8-2山岡毛皮店内 TEL (03)572-0021~2

これは神戸を愛する人々の手帳です。あなたのくらしに楽しい夢をおくる。
神戸を訪れる人々にはやさしい道しるべ、これは神戸っ子の手帳です。

表紙／小磯良平

1 Second Cover／津高一

3 神戸っ子'69／撮影・米田定蔵

①小池正子・②小坂務

7 ある集い／「神戸二紀会」

9 コウベ・スナッ／地下に潜る湊川駐車場

13 わたしの意見／小林芳夫

15 ヨーロッパかたつむり夫婦漫遊記

中西勝・咲子

21 随想／春信・水越松南

23 随想／神戸を語る・西脇親

25 連載随想・Rocking ChairⅧ 十河巖

歩け歩け上を向いて歩いていると救急車

29 神戸酒徒横綱談義

砂野仁、朝比奈隆、安部正夫、陳舜臣

37 酒徒選考座談会

経済人／田中健一郎・角南猛夫・石野成明・

鶴殿礼栄・浜田富枝

文化人／青木重雄・竹田洋太郎・伊藤誠・春木一夫

42 44年度酒徒番附表

45 経済ポケットジャーナル

46 神戸のアーバンデザイン／水谷顕介十

神戸のモダンリビング／チームUR

48 技術ジャーナル／諸岡博熊

51 ある集い・その足あと／「神戸二紀会」

52 動物園飼育日記 ⑧／ボスの座へのかけひき・亀井一成

58 ある日のモード＜2月＞福富芳美

73 神戸るほ／祥福寺に坐す

79 神戸の集いから

80 CINEMA ⑨ 淀川長治

82 神戸遊戯誌 ⑨ バスケットボール ⑨ 青木重雄

86 連載マンガ／プレゼント・岡田淳

88 マダム・ド・コウベ／武田洋子・竹田洋太郎

90 ヘンなページ ② さんおくれん／向井修二

95 百店会だより

96 ポケットジャーナル・花時計

100 連載物語第17回・非悪童物語／足立巻一

110 連載小説／兵庫の女＜36回＞武田繁太郎

116 海・船・港 ② アラスカ・メール号をたずねて

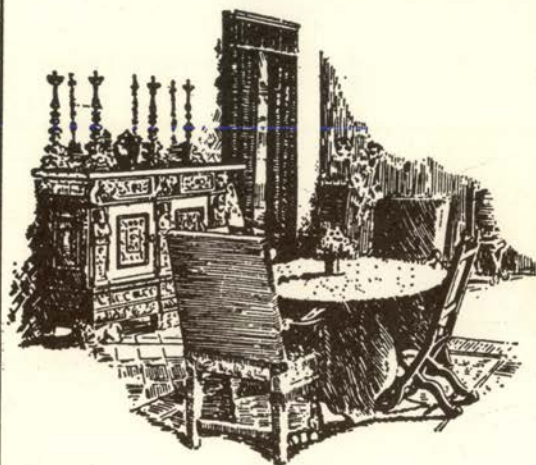
120 カメラ歳時記＜2月＞カメラ／緒方しげを

カメラ／米田定蔵

レイアウト・カット／港野千穂

●2月号目次

家具・室内装飾・工芸品



永田良介商店

神戸市生田区三宮町三丁目・大丸前・電話神戸 (39) 3737 (代表)

東京店・東急百貨店 日本橋店内 1 階 03 (211) 0511
本店 (渋谷) 6 階 03 (462) 3180

Nakaniwa



宝石
貴金属
時計

仲庭

さんちかタウン (39) 4 5 9 3
梅田新道 堂ビル北(364)8121代表
梅田阪急前(御堂筋東側)
(313) 0512代表
桜橋 毎日新聞社前(341)0412
新大阪ステーションストア
大阪ロイヤルホテルセイコーショップ

市民同友会20周年を迎えて
神戸市民運動の
中核としての場



小林 芳夫

市民同友会理事長
兵庫県教育委員長

——市民同友会二十周年を迎えてのご感想を……

市民同友会は、昭和二十三年、新開地の一角で発足、戦後の混乱期の中で、市民社会建設期に即応した文化運動の中核としての場を提供することになったのです。

私は、昭和三十年、前任理事長岡村丹二氏の後を嗣いだのですが、昭和三十四年に兵庫県文化賞を受賞したのが大きな思い出ですね。

新開地時代から楠町六丁目時代、神戸新聞会館に間借りをして、昭和三十七年には灘神戸生協の山手センターへ、そして、昭和四十一年、やっと現在のセンター街の事務所に移転。この相次ぐ移転の歴史は、市民同友会の経営の苦難を物語っています。

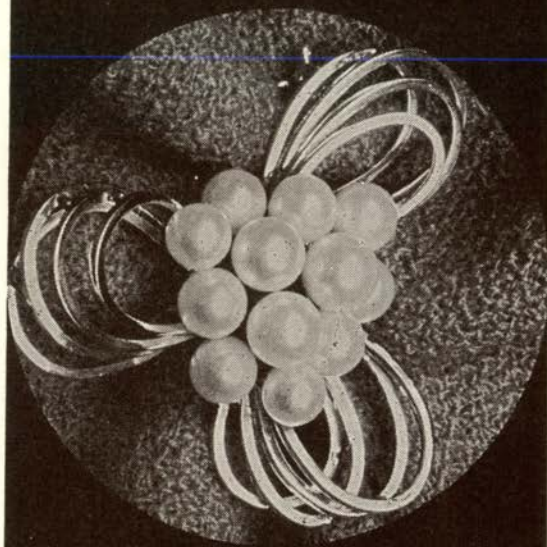
戦前の縦割りの人間関係から横のつながりを規範とする新しい人間関係を生み出すには、身分、地位を離れて裸で接触できる場が必要ですね。市民同友会は、名実ともに市民の皆さんに場を提供するものとしてあるので、その難しさは、灘生協の山手センター時代に現われ、グループの縮少、出版活動による新たな交流の場の設置、ラ・ノメールの会発足など、まさしく「冬の時代」でした。また、昭和三十三年には、グループ、支部が相次いで発足、共通の広場で個人の能力が交流するために与えられている場の活用が行きすぎて、それについて四カ月間も「市民情報」において紙上論争がなされるなど、時代の流れを背景にして大きく動いてきています。「市民情報」も昨年で五〇〇号、また若い人の活発な頭脳のコミュニケーションである「市民の学校」も四年目を迎えます。ますます自由の気風溢れる現状です。

——神戸に育つ市民同友会と、地元神戸について

市民同友会のような集いは、他都市にはないですよ。イギリスで市民同友会的な集いを見てきたが、少し違いますね。神戸の市民性の方が進んでいるのでしょうか。確かに神戸という土地柄が、文化人、経済人の枠を超えた集いを可能にしている。爆発は神戸では続かないが、燦りは続く。市民同友会は、その最たるものでしょう。

Kitamura Pearls

世界の人々に愛される
キタムラパール



北村真珠株式会社

神戸：元町店 TEL ③③ 0072
東京：スキヤ橋店 TEL ④571>8032

あなたの夢を作る
神戸眼鏡院だけの
あなたのフレーム



神戸眼鏡院

元町店・元町3丁目 ☎③1212代表
三宮店・さんちかタウン ☎③91874～5

●ヨーロッパ
かたつむり

夫婦漫遊記

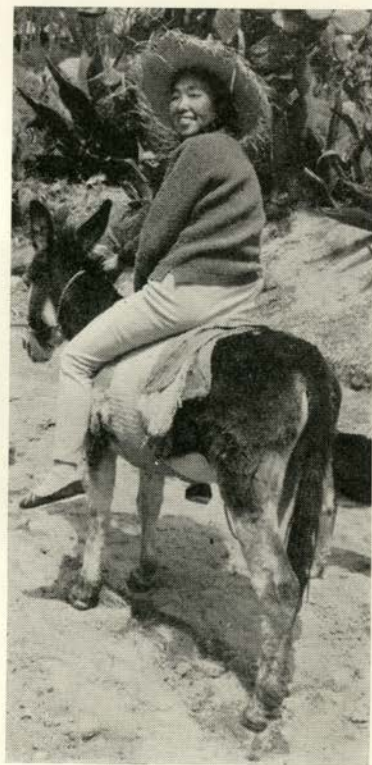
中西勝・咲子

スイスのインスブルックの町は赤い電車とマクシミリアン一世ゆかりのお寺にあった王様や姫達の等身大のブロンズ像が印象的でした。衣裳のレースやビーズ刺繍が実にリアルに、堅固な意志で鋳こめられ、きびしい自然に鍛えられている人々の緊張した生活を物語っておりました。

余人ならばここから、右へスイス、または左へウィーンのアルプス縦走を試みたいところですが、漫遊とはいえ、美術行脚の目的がありますので、美術の宝庫イタリア



▲メキシコの中西夫妻



アへと曇り空の山道を谷川に沿ってブレンネル峠を越えました。ここが国境です。小柄な税関のイタリアさん。パスポートを見て「あんたのヒゲはジャポンじゃない。ホーチミンだ」と嘲したてます。「さすがイタリアだねえ」と噂に聞くラテン系の国の解放感に私は期待を寄せました。日暮れて雨模様なので、国境近くのキャンプ場に入り、新しく買った補助テントの張り方に苦心していますと、まわりの人々が寄ってきて大はしゃぎで張ってくれました。この人々はドイツ人で、およそ本国では見ることのなかったふざけ方です。イタリアに入ると、こうも気分が変わるものかと、私達もアルプス以北が急に学校の教室に閉じ込められていたような錯覚を起こしますから勝手なものです。夜半風雨強く、折角のテントは倒れてしまいました。（テント位どうでもいいや。イタリアへ来れたんだものナ）

サア、期待のイタリアはどんなところでしょう。かたつむり号はハイウェイを嫌って、くねくねの雨に濡れる細道をのどかに進みます。ブレンネル峠を境に車の走る方向を変えた谷

川は、初めは激しい瀬音をたてる細い紐ですが、雪解けの滝や小流を合わせて、みるみるうちに谷幅を広げアピジオ川の流れを懐に入れて、アデッジ河の本流になるところトレントに至りますと、すでに悠々たる大河の貫録を見せております。先ほど、白毛の小犬のように岩の間を飛びはねていた水は、今や、とうとうたる自信のもとに、草刈りの草を浮かべ、川岸の子供達からビニールの赤いまりをうばって、まるで戦争にでも出かけるように先を急いで、せわしく流れていました。

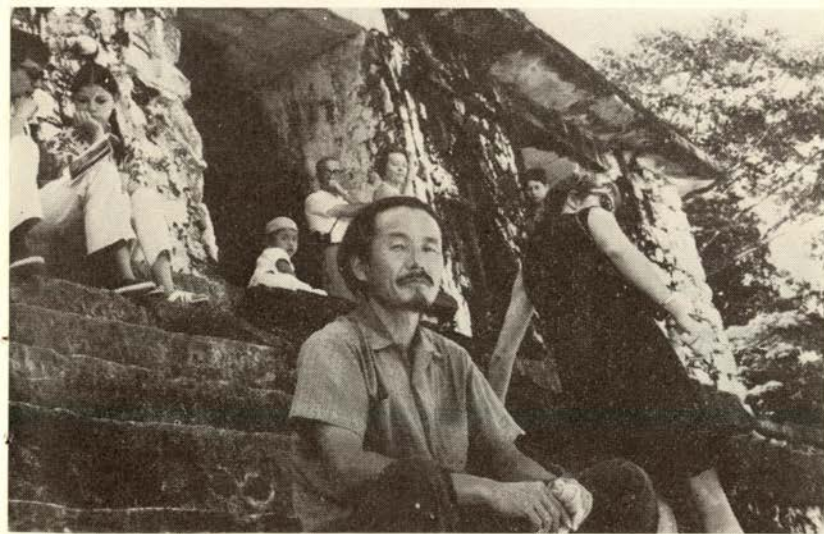
イタリアでの最初の町トレントはガルダ湖の北方四十^キあまりの地点にあり、昔から北部イタリアの重要な町であつたらしく、巨大なコンシグリオのお城（内部は美術館）や、ドウモと呼ばれる本寺の広場のまわりには歴史を物語る建築物が、さすがに、今まで見てきたドイツ、デンマークに比べて隔絶の偉容をみせております。

早くも画家は目を瞠って、これはイケる!!と武者ぶるいしました。幸か不幸か、この時お咲さんは激しい下痢と熱におそわれていました。インスブルックのキャンプ場で、草の上に寝そべって前号の原稿に熱中していたとき高山の直射日光で頭をやられたらしいです。それで、勝さんは朝晩病人のために、おかゆを作り、リュックを背負って一人歩いて町へ描きにゆきます。お咲さんは三日間犬小屋のような小さなテントの中で昏々と眠りました。

このキャンプ場にU・R・S・Sの印の大きなキャンパー（旅行用車）があつて、この車の住人は、ロシアはキエフで生まれ、ポリシヨイサカスで日本へこられたことのあるというウラジミールさん。はからずも勝さんと同じ年で、一目で気の合った同志になりました。お咲さんが、少し元気になって、ワンワン等といいながらテントから這い出してきたのを見て、彼は日本の着物を二枚も着換えて（一枚は宿のネマキ）刀をさし、エイヤ!!とアクロバットの妙技を入れて大はしゃぎです。勝さんも負けじと、ズボンの上にゆかたをひっかけて、二人で

まことに息の合った大活劇。ウラジミールさんがテレビコマーシャルを聞いておぼえたという「フナバシ ヘルセンター タラン タラン ラン」と唄えば、勝さんはエイコーラー エイコーラーと変てこなボルガの船唄で踊りまわるという工合。飛び出してきた他のテントの人々と共に、お咲さんはあんまり笑いこころげたので、すっかり病気が治ってしまいました。それで翌日は黒紺のゆかた等を着込んで、ウラジミールさんが特別の好意で二人を招待してくれたサーカスの見物に出かけました。

アルプス続きの山へ渡されたロープウェイの行き交うアデリッヅ川のほとりに濃紺と黄の大テントを張って、周囲には五、六十台もあるかと思われる近代機械設備





をそなえた移動車を連ねて、それはそれは驚くべき大サーカスでした。これじゃあ、私達の坐っている特別席はさぞ値段も高かろうと、旅の身空では、なかなかこんな好意は有難く身に沁みます。力自慢、美しい白馬の曲乗り、象使いの美女に勝さんが、ホレタ!! といえはお咲さんも負けずに、ライオン使いの好男子が柔軟な肌を見せて猛獣の牙を見事に馴らしているのに感嘆の声を発します。アクロバット、魔術、ブランコといずれも一流中の一流の妙技を見せ、ヨーロッパらしいユーモアとお色気の色と光の中でとてもたのしい。圧巻はヨガの奇法。手足の関節をはずして縄になったような工合に体にかませてゆくのは、見ていて息がつまりました。

こうして一夜は興奮の渦の中ですぎ、翌日はまた、絵

を描いているときに知り合って車でキャンプ場まで送って下さった若いお医者さんご夫妻にドライブに誘っていただきました。フィアット六〇〇の自由自在な運転で、くねくねの山道を、静雅な古い町、ドロミテアルプスの高い山が湖水にせまり、水面が深いもやにかすむ中に古城の影が夢のように浮かんでいる。そんなところを私達は見物にいきました。こんな夕暮こそ、古きよきヨーロッパの物語が幻影となって浮かび上がるときです。久しぶりにハンドルを持たないお咲さんの脳裡は、うっとりとしびれるようになりました。帰途に、大きな酒樽と落書で有名な穴蔵酒場で、地酒のブドウ酒と幾種類かのおいしい燻製肉をご馳走になり、ご気嫌の勝さんはお二人の顔を色鉛筆で描いてあげましたが、これは、一カ月前にフランス旅行で知り合って結ばれたというロマンな新家庭には、何よりの贈り物になったようでした。

さて、苦あれば楽ありのトレントを出発して、エスカル号多少道を急ごうとしましたが、いずれ劣らぬロマンチストのカップルを背にしては、どうも思うように進みません。

山中の中世国の小さな町、遺蹟の如く立派な石造りの家の二階に、香ばしい乾し草がいっぱい詰めこまれ、古い酒樽が、家鴨の住家になっているようなところで、またキャンバスを広げてしまっていました。炎天の中、コウモリ傘を車の荷台にくくりつけて…。

それから、イタリア最大の湖ガルダに至り、道をより変化に富むといわれる西側回りにとりますと、早速、噂のとおり無数のトンネル。これでもか、これでもかと続きます。

まだ湖北のリモン・デ・ガルダで、もう日が暮れました。ガルダ湖は、コモヤ、マジョーレの湖と共に、ヨーロッパ有数の観光地。キャンピンググッドはすでに、各国からの避暑客、旅行客を集めて、明るいテントの大小、家ごと引っぱってきたようなキャンパー等で賑わっています。初めて、アメリカのキャンプ場でキャンパーを見

た時は、その便利さと合理的なのに驚き、アメリカは金持だなぁと感嘆したのですが、ヨーロッパにきてみ

すと、なお多くの、なおおびただしい幾種類のスマートな旅行用車を見て驚いております。しかも、ヨーロッパの中流の人々は、キャンプなんて乞食のすることだと各々別荘を持つことが、当たり前になっているようですからやはり、永い間に、西欧の地に蓄積された富というのは、量り知れないなあと驚くばかりです。

水際にテントを張り、お咲さんが食事の準備中、勝さんは釣糸を垂れます。

ガルダの水は澄み切って美しく、此岸も彼岸も灰色の岩肌をみせる高山が迫り、オリブの銀緑色とサイプレス(糸杉)の濃いみどりの塔が、山裾を飾っています。

湖上では、朝早くからモーターボートを繰り出す人、水上スキーのすばらしい妙技をみせてくれるかと思うと小舟を漕いでアスクリームを売りにくるおじいさん。(せめてゴムボートが欲しいなあー)一人乗りのタライ型から、モーターエンジンをつけ、椅子や釣り竿掛までついた大型まで、ゴムボートでも、まあその種類の多いこと。夜敷いて寝た空気マットを、目をこすりながら水上に放り出し、その上でまた眠っている横着なものもあります。

ここを一日でさよならするのは、千載に悔を残す、とお咲さんは心残りだが、「釣れへんからダメだよ」と勝さん。「もっと汚ねえところの方が釣れるんだよ」一体どっちがカン違いしてるんだか。

ガダル湖畔のドライブは一寸したスリルです。特にこの西岸は、ドロミテアルプスの非常に高い山々が湖畔に迫っていますので、道路はかなりの高所でトンネルが続き、その数も一〇〇や二〇〇じゃあるまいと思います。では天下の絶景を真暗なトンネルで目かくしか、と思うと、そうではありません。長いトンネルでは湖水に向かって窓があけられ、多くは切れ切れのトンネルで、つまり、えんえんたる回廊のえんえんと続く柱のようにトン

ネルがあるわけです。トンネル道は、もとより広くなく、折から日曜日のごとで、大変なラッシュ。

「ゆつくり見物できるからいいね」と主従まことによく人間ができておりますが、中には、こういう風流心をすっかりスポイルされてしまった人もいて、曲り角(トンネル内の)でも、キューキューハンドルを鳴らして追い越していきます。ハラハラしているうち、案の状、わがエスカル号の後で何かあったらしい。原因はいささかわれにありますが、別に恥じることはありません。つまり「銭はらっていい景色見にきたんやさかいな」と、まあエスカル号花見遊山の足どりなので、一台の大きなバスがエスカルを追いついた途端に向うから、同じ大型バスがやってきて、バス同志、指一本の間隔ですり抜ける。お咲さんはブレーキを踏む。このわずかなスピードの落ちが気に食わないのがいて、一台おいて次の車が、追いついて越して企てたのでしょうか。それで向こうからのバスと、後続車との間でどうかなったのだと推察されますが、いずれにせよ、わがエスカル号の後から一向に車がやってきません。おかげで、のんびりと空は青いし、湖水は広い等と浪花節を喰ひながら、エスカル号はわが世の春です。

だいたい、ドン・キホーテ物語が近代文明への警鐘なら、黄門夫妻扮するドン・マサール、サクチヨの旅も、近頃機械文明の走狗となつて、人間世界の美しき永遠の平安を搔乱する奴らに、時にはこうして、身をもつて思い知らしてやらなくちゃあならない、のであります。

「いい気もほどほどに腹が減った」とP印に車をとめました。

そこにはオリブの樹海がはるかに湖面まで続き、白い服のおじいさんが新鮮なオレンジやグレープフルーツを枝葉のまま、鈴のように吊して売っていました。それは、いかにも水々しく、やわらかく、あたりの澄み切った空気と解け合つて、旅のダイゴ味!!一〇〇パーセントでした。

(次号につづく)



O-SHIBATA



柴田音吉洋服店

神戸・元町4丁目南 神戸 34-0693
大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106



1870 SINCE



BERLIN
ORIGINAL PELO

日本販売元

元町バザー

神戸・元町1丁目 TEL (33) 1401-7031
東京・東急百貨店 渋谷・日本橋

カメヤのおひなさまで
楽しい桃のお節句を！



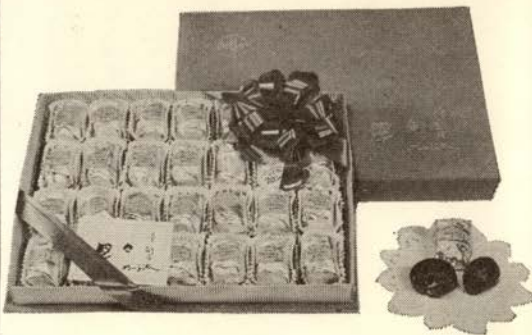
おもちゃのカメヤ

三宮方面でのお買物は………
 さんちか店 フアミリータウン 33-4045
 三宮店 センター街大洋劇場東隣 33-4969
 元町方面でのお買物は………
 元町店 元町通3丁目山側 33-0090
 パンプウ店 元町通1丁目不二家前 33-0768

パリの味！



**ヒロタの
マロングラッセ**



姿といい、味、色艶にフランス菓子の
優雅な華麗さをそのままお伝えします。

**洋菓子の
ヒロタ**

元町店 三宮店 さんちか店 秀品店 そごう店
 33-2340 32-1227 39-3474 23-2312 22-4181代

□ 随 想 □

春 信

水越松南（絵と文）

人の住むこの自然は山河高低、野水縦横、風あり、雨あり、瞬時息むことなく生きている。テールの上で製図企画したハイウエイとはことなる。

人の生き方にも、長短、賢愚、貧富の差のあるはずである。然も古今東西、人は一様に幸福を希求してやまない。

営々日夜を分たず働き、財を積み、失うことを怖れ、恨みをのんで倒れ、智に溺れて才を勞し、人愛地位を得て失うて消え、武を頼んで隣国を破りやがては自国を亡ぼす。史家多くこれを伝える。



幸福とは如何なるものならん。

人は思考する生物である。奈良斑鳩の中宮寺に弥勒菩薩を拝し、これを想う。慈愛に満ちたあの仏相、慈眼の思索、仏心は不壊の幸福そのものである。

仏陀もキリストも心の愛を説き給へり。

南画の心は畢竟愛なり。

幸福は愛の化身にあらずや。

今、わが小庭の片隅の青木の実葉はぐれに珊瑚のように真紅に染まり、つやつやと浅春の陽光を浴びて輝いている。雀が数羽、草根の土くれにあれこれ餌をあさっている。一羽の雀が梅枝にとまっている。清く閑かである……私の心……。羽化し、子雀に隣して梅花に座している。

私が画道に志して、物心つき、あらためて南画道に帰依した動機を語ろう。

京都市絵画専門卒業後の一日、神戸のある外国商社のマネージャ某氏の来訪を受けた。

「自分は毎日ビジネスに追われ、心を楽しめます余裕のないことが悲しい。せめて画を描いてもらって心の楽しみの糧としたい」

画材は雀がそれぞれ勤勞から帰り、暮なづむ竹枝に安らかな眠りの宿をもとめて、群れ集うている心の図を描いて欲しいというのである。

……心を描かねばならない！

私は率然と襟を正した。これは大變。この人は無難作に、自己の求める幸せも、雀の幸せも、無縁でなく有縁であることを希求しておられるのである。かつて学校では聞いたこともない天声であり私の心耳に、あたかも青天の霹靂がごとく鳴り響いたのである。

真を求め、善を養い、美を称える。形而上芸術の南画道の心はこれである！ 人間性の愛である。天の心でもある。

画は人なり。

一茎の野草も蝶を通わせ、枝蛙はカッカツと雨を呼びこなう。人も愛情の心もてすれば、自然消息みな詩画となり、非情の心もてすれば、すべて物体、物質と化し、ハイウエイを飛走する機械となる。

南画は、その歴史を遡れば千余年の昔、支那唐代の画人であり、詩家であり、哲人であった王摩詰を祖とする。わが国室町時代の入宋禅僧によって技と精神が伝えられた。

即ち、画禅一如これにあり。

皮相を超え、実相を直観する画法で、形而上美術の至高である。したがって南画の名作は多く、端的、簡素でまた素朴である。しかも氣韻生動し天地の生命を観る者に直流する。欧米で仰がれる水墨画とはこの南画を指し、その画心を捉えて東洋の真の心を汲もうとするのである。即ち、悟りである。唯物主義的欧米の文明、文化人に与える影響は意外に深く大である。

春！ 臉をとじると心に陽春の裳の絹ずれの音がきこえてくる。水ぬるむ、桃の花、菜穂、少女集う雛祭り。嬌羞……艶色あり……。

蛤の笑うこえあり宵の雛 抱一上人

△南 画 家▽

□随想□

神戸を語る

西脇 親

え・津高和一

私は数年前から本籍を東京から神戸に移したの
で「神戸っ子」にも申す資格がやっとできたと思
っている。

神戸の生活は昭和三年から約四十年、ずいぶん
長い歳月である。昔のことはさておいて今の神戸
について私の感想をのべさして頂こう。

人口百万を少々上回る神戸は住むにまことに快
適な都市である。東京・大阪のようにだっ広い
膨大な都市はなんとなくまとまりも悪い。お互い
に相知る機会も少なく案外寂しいものである。

長く神戸に住んでみると、どこへ行っても誰か
しら知った人がいて話し相手にもこと欠かない。
こんな楽しい生活が味わえるのも神戸のもつよさ
の一つである。

海あり、山あり、日曜の散策にも思い立ったら
すぐ行動に移せるのも神戸のよさである。月給取
りで長く神戸に勤務した人々が停年後の生活を神

戸に憧れるのも故あるかなである。それに加えて
酒は灘の生一本、明石の鯛・牛肉の味。こんな三
拍子揃った都市は神戸をおいて他にあるまい。

釣を何より楽しんでる私にとって神戸はまた
とない楽しい土地である。春は防波堤の小物釣
り。夏は須磨沖で鱸やチヌ釣りが夕方からいとも
簡単にできる。秋は沿岸いたる所で色々の釣を楽
しむことができる。

健康的でしかも安い費用で楽しめる釣りが近年
大衆化したのはまことに結構なことである。
神戸に住む釣り師はまことに恵まれている。

このような神戸のよさは自然環境の然らしむる
ところで他の都市の追隨を許さぬ点であるが神戸
のよさはこの環境ばかりではない。

それは神戸の持つ文化性と知性である。

開港百年を迎えた神戸は日本でいち早く欧米の
文化を受け入れ、これを上手にこなして今日にい



わ

たった。住んでみていわゆる田舎臭いという点が全然感じられない。開放的で非常に住みよい都市である。ミナト神戸という性格からよそものを迎えても至極あっさりしていて排他的でない。

これも近代都市として神戸の持つ知性の一つである。

原口市長が計画しすでに実施されている阪神高速道路公団のハイウェイ・地下鉄の神戸高速鉄道株式会社・六甲山の開発・三宮地下街等の事業は今日の神戸発展に大きな役割を果たしている。

また市長が長年にわたり熱心に提唱しておられる夢のかけ橋・ポートアイランド等の計画が実現されるのも間近いことである。

これら一連の計画が将来神戸だけのものではなく日本経済の進歩発展につながることは論をまたない。

そうすると神戸人の将来に対する責任はまことに重大なものがある。

さて、責任を持って将来の神戸を担うべき人は誰であるか。

ずばり一語でいえば若い人々である。

アメリカはすでに四十台のケネディー氏を大統領に選出し今回もまた五十台のニクソン氏を選んでいる。明治維新の大改革を敢行したのは若い正義に燃えた青年志士達である。

神戸の将来を担うべき人も例外なく正義と信念に溢れる若い人々である。

私はその意味で神戸の将来を青年会議所の若い人々に託したい。青年会議所も設立後すでに十年

を経過している。設立当初のお坊っちゃんの軟弱時代から脱皮して今や逞しく成長している。

創立五周年記念事業として若い人々が主唱し噴水塔建設の募金活動を行ない、今日、市民の憩いの場となっている。

この時の努力も大変なことであったと想像する。地域社会へ貢献する若人の情熱に敬服する次第である。

神戸にも色々と大人の団体、グループがあるが私は寡聞にしてまだこの種の実現されたのを聞かぬ。老人は色々と議論はするがほとんど実行しない。

私は樽本理事長と親しいのでこれからの青年会議所はもっと政治問題と真剣に取り組んで政治活動を活発化すべきだと話している。

ある政党は盛んに青少年に呼びかけている。

大学は全学連に手を焼いている。

企業は組合の賃上げに収益を喰われ困っているサラリーマンは税金で手も足も出ない。

こんな日本をこのまま放置して果して大丈夫だろうか。私は心配でたまらない。

若人よ奮起せよ、これが私の願いである。今年の日本青年会議所の会頭は神戸出身の牛尾治朗君と聞いている。彼ならばこの大役も立派にこなして行くと信じている。

この機会に神戸青年会議所の奮起を切望しご健闘を祈る。

△神戸土地建物K・K社長▽

れんさいずいそうⅧ Rocking Chair
十河 巖〈随筆家〉

歩け歩け 上を向いて歩いていると 救急車

去年の交通事故死の数は史上最高で、年間の負傷者は過去の最高六十万人が八十万台に飛躍している。

三選を勝ち得た佐藤総理は、当選後初めての挨拶で、交通事故対策は最も緊急な事項のひとつで、ぜひその対策を早急に樹立しなければならないといった。その対策というつもりだろうが、荒木国家公安委員が事故防止対策を発表しているが根本的と思われる対策はひとつも見当らない。

交通とよくいうが、これは運転車と歩行者の戦争であるといっている。

運転免許をもっているものは二千五百万人を突破して総人口の四人に一人がいつでも運転できる体制にある。

交通戦争で運転者側を制圧するには、まずその数を制限することだ。といって一人に免許して他には免許しないというわけにはいかないだろう。ましてや普通の道路にしる高速道路にしる、車輛のことをまず一番に考えて

歩行者は二のつぎにしか考えられていないようだ。

集団炊事が進んでくると、自分が食料の材料を買ってきて、自分の好きな料理を選んで、自分の好きなような味つけをして食事をするのは、贅沢千万だといわれるようなことになるかもしれない。そうなると、悠々と大道を闊歩したり、ステッキを握って漫歩することなどはそれこそ贅沢だといわれる時代が来ないとは限らない。もともと人間は二本足の動物で、てくてく歩くのが本当の姿である。四輪車の車に乗って走るのは四つ脚動物になって走ると同じことになる。

大阪梅田駅前のごときは道路を渡ろうと思うと高い陸橋を上ったり、下ったりしなければならぬ。それに反して車輛は大威張りで平地を颯爽と飛ばしている。人間よりも車輛の方を優遇し、歩行者優先どころか歩行者虐待も甚だしい。

この傾向がひどくなれば誰でも彼れでもてくてく歩く

のが嫌になって、自動車運転免許状をとるのに憂身をやつすようになる。

歩行者優先は人間性の尊重から出発すべきである。

もしもほんとに歩行者を優先し、人間性の尊重を認めるならば、まず第一に人間がもっと安心して大道を歩けるようにしてもらいたいものである。

住宅地区ならば朝のうちの二、三時間というものは、安心して散歩ができるように、散歩道のひとつくらいつくってはどうかだろう。

もしそれができないというのなら、午前七時から九時ごろまでの二時間ぐらいは、特定の散歩コースを指定して、車輛の通行を禁止してはどうだろう。最底の場合一方交通にしてもかまわない。

こうしてもっと歩くことに興味をもたすようにつとめない限り、誰もみな免許状をとりたがるのも無理はない。厚生省が「歩け・歩け」を奨励してみても、九ちゃん「上を向いて歩け」と歌っても上を向いて歩いていようものならたちまち救急車だ。

自動車があふえすぎるなら自動車の激増をおさえるようにもっと税金を高くすればいい。通勤上ぜひ自動車が必要だというサラリーマンの税金など一部会社で負担すればいいだろう。

趣味や道楽で、自家用車がふえてこのうえ狭い道路を輻輳させることを避けねばならない。

日本の道が狭くて困っているのに大型外車などを運転するものがまだあるようだが、数年前に官公庁で外車の使用を廃止することになったが、またもや外車がふえてきたのではないだろうか。また、会社の社長族も大型自動車に乗りたがる。狭い道路を大型で走るのは歩行者にとってめいわくだし、ましてや狭い道路に停車でもしたら通行者は大弱りである。

会社の社長だからといって大型外車を使用しなければならぬと思うのはどうかと思う。

昔の軍隊で陣笠は歩いていたが、侍大将ともなれば名

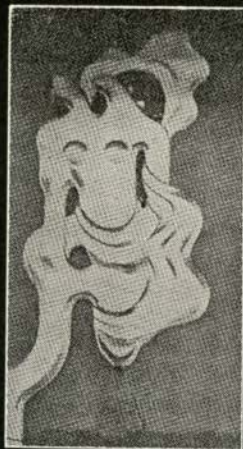
馬に跨がって戦地を馳け回った。その風はいまでも変らないが、それと同じようなつもりで会社の社長が自動車に乗りねばならないと思うのは大間違いだ。会社経営者が部下掌握のために貫禄を示さねばならないと思つて立派な自動車が必要であると思つたり、陳頭指揮をするためには始終車を使って余力をたくわえ、時には走行中昼寝をして疲労を回復することも絶対に必要でないとはいわれない。しかし近代産業で、下士官や尉官級の若い社員も将官級の幹部といえども精神活動のためにつきやす精力は同じこと。ましてや老齢の社長であれば必要だと思ふが、なにも大型の外車や高級でなければならぬということはない。乗るならば小型でスマートな、機能的にもすぐれた車を選ぶというような新しい趣味にのりかえてはどうだろう。

いまは九十才を超えるご老体だが、さる新聞者に社長として在任中、芦屋の自宅から阪神電車に乗って梅田で降り、梅田からバスで渡辺橋の本社まで吊皮にぶらさがつて通勤した。しかもバスの中で、乗り合わせた若い社員が起つて席を譲ろうとしても決して席に座りはしなかった。

従つて同社の社員には女や幼児に席を譲るとも、乗り合わせた上役に席を譲つて胡麻をすろうなどとするものがないといった美風があった。しかし今は知らない。

暮や正月のセンター街の混雑ぶりは大変だった。臨時店舗が軒をつき出しているのではなさである。驚いたことには戦前通りいぜんとして左側通行である。交通警察官はお手あげ状態だ。有馬の旅館で消防署の忠告を無視していて、多数の焼死者をだした。左側通行を黙視するようところが遵法精神を軽んじ、合理主義精神を無視する「いいかげん」心がかげをつくる精神的温床となっているのではないだろうか。

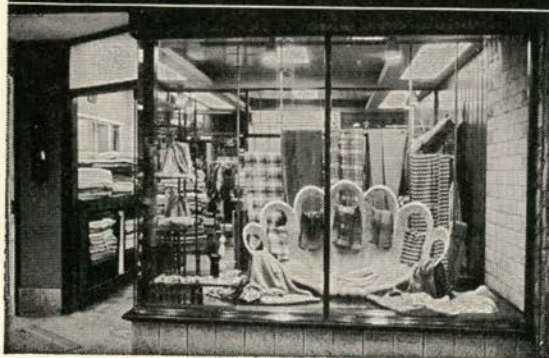
歩行者を優先、よりは優遇してほしい。そして車やめて歩くことに興味をもたせるようにしたらどうだろう。



Lady's Shop

La Mode

MOTOMACHI KOBE TEL ③5689



服飾デザイナーへの夢を育てる 戸塚敏衣服研究所

公認・伊東連盟校

★入学期

4月
10月



洋裁本科
高等科

研究科
男子科
手芸科



写真は戸塚敏
デザインの作品です

神戸新聞会館東隣り

三栄ビル 4 階
TEL 22-6268

や
ハンディに飲ろう!

キクマサ 〈ハイグラス〉

ピシッと ひねれば
ハイ! キクマサです。
そのまま飲めます。
どこでも飲めます。
灘の粋キクマサの
あの味と香りが
ハンディに飲めます。
旅行に スポーツに
ゼッタイです。



手さげ6本入り



レジャー・旅行スポーツ

お土産催物の景品に



パーティ・慰安会祝賀会園遊会など

会社団体の行事に



灘の生一本

菊正宗

菊正宗酒造株式会社

90円